

# 子ども俳句だより



平成28年度 6月 井口台小学校校長室

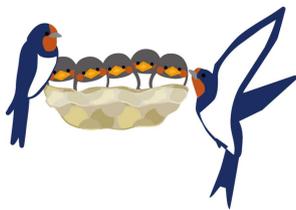
運動会も終わり、いよいよ6月です。もうすぐ梅雨の季節がやってきます。今ならではの季節を感じて、生活の中楽しさや面白さ不思議さを発見してほしいと思います。いろいろな場面で感じたことを俳句にしてみましょう。自分ならではの俳句を投稿してください。待っています。



## 【今月の大賞】

「ツバメたち巣(す)作りはげむ屋根(やね)の下」

5年 谷本 陸



親ツバメでしょうか。せつせと巣作りにはげんでいる様子が目にうかびます。ふと見上げると屋根の下に巣を作っていたのですね。その中には子ツバメもいるのでしょうか。今の時期にぴったりの季節感あふれる俳句です。

## 【入選】

「ついに来た今年で最後の運動会」 6年 砂古 環

「しとしとと雨の音(ね)まるで音楽だ」 6年 谷藤佑子

「バトンパスみんなの気持ちつないでく」 5年 小泉晴花

「ひみつだよおかあさんにねプレゼント」 5年 深田晴菜

「雨の日のフロントガラス流れ星」 4年 杉照太

6年生にとっては最後の運動会。気持ちをつなぐリレーのバトンパス。今月は運動会の俳句がたくさんありました。そして、雨に音楽や流れ星を感じたり、お母さんへのやさしい気持ちを表したり、素敵な俳句もたくさんありました。

## 【今月のおすすめ俳句】

ナイターの点燈(てんとう)しなほ(お)薄暮(はくぼ)なる

岩崎健一(いわさきけんいち)

ナイターが夏の季語(きご)。日の暮れのおそい夏だが、ナイターのライトに灯(ひ)がついた。それでもなおしばらくの間、あたりはたそがれの色につつまれている。日が暮れきるにはまだ間がある。球場のざわめき、カーンとボールの音も聞こえてきそうだ。「夏の名句と季語」より

カープの試合が楽しみな季節です。がんばれ!

